

# 2014

## 活動報告書

認定NPO法人D×P



D×Pと、ひとりひとりの高校生をご支援くださっている皆様へ  
感謝を込めて。

### 認定NPO法人D×P (ディーピー)

住所	540-0032 大阪市中央区天満橋京町1-27ファラン天満橋33号室
TEL/FAX	06-7222-3001
MAIL	info@dreampossibility.com
WEB	<a href="http://www.dreampossibility.com/">http://www.dreampossibility.com/</a>
Twitter	<a href="https://twitter.com/npo_DxP">https://twitter.com/npo_DxP</a>
Facebook	<a href="https://www.facebook.com/npodxp">https://www.facebook.com/npodxp</a>

理事	今井紀明 朴基浩 (共同代表) 村中直人 (一般社団法人子ども・青少年育成支援協会)
----	---

監事	毛受芳高 (一般社団法人アスパシ教育基金)
----	-----------------------

スタッフ	川上竜典 入谷佐知 塩田陵 近藤紗恵子 額建人 金子祐樹 野津岳史 熊沢あずさ 中西みちる 荒木雄大 (以下、2014年度内に卒業したスタッフ) 小川麻綾 中村しおり 米澤悠亮
------	---

写真撮影	木田優介 権藤大輔 佐脇優太 佐々木拓人 中西みちる 荒木雄大
------	---------------------------------

●D×Pへのご寄付は税制優遇の対象となります。寄付金額の最大約50%が返金されます●

学校にいるのがしんどくなったとき、  
両親が喧嘩して家にいづらくなったとき。  
僕はたいてい、自転車を走らせて近所のカフェに向かう。

そのカフェの扉を開けると、  
カランカランと小さく鐘が鳴った。  
お客はまばらだった。  
奥から店長がのそっと顔を出した。  
僕が「よっ！」と声をかけると  
「また来たのか」と  
にやっと笑いながら水を出してくれた。

その店長とは、半年前に  
「クレッシェンド」という学校の授業で出会った。  
大人が5人くらい教室にやってきて、  
過去の辛かった話とか、今やっている仕事の話をした。  
いまでも、その大人らにはたまに会うんだけど  
そのなかで一番ウマがあったのがこのカフェの店長で。

僕には「やりたいこと」はない。  
でも、このひとと話していると、  
「これから楽しいこともあるかもしれない」  
って思う。

たとえば。  
D×Pは、そんな場面が  
どの地域でも溢れる社会をつくりたい。

## ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会

これが、D×P（ディーピー）が目指している社会です。

「この社会では、どんな場面に出会えるだろう？」と考えた時、いくつかイメージが湧いたうちのひとつが、右に書いたものでした

子どもが、豊かな人とのつながりを持つていて、おとなが、あたりまえのように学校のなかを行き来していて、あたりまえのように顔と名前を知る子どもがいる。

若者が希望を持てる社会とは、「おれこんなことやりたい！」と言う人が溢れる社会ということではなく、

人と人が出会い、関わりあうなかで、元気がなったり元気がなくなったりしながらも「おれ、大丈夫かもな」と若い人が思えるような、そんな社会です。

「自分なんかどうでもいい。どうなったっていい」  
「俺、人生詰んでると思ってる」

定時制や通信制高校の現場に行くと、  
そこで出会った高校生がこう言います。  
日本の10〜30代の若者が  
年間約6500人自殺していきまます。

これが、今の日本です。  
僕自身、学生するとき「死にたい」と思って真夜中に大分の道路で大の字になって寝転がったことを、ふと思ひ出します。

これを読んでくださっているあなたは  
D×Pをサポートしてくださっているお一人だと思えます。

そして、あなたが今日まで  
生き抜いてくれたこと、とても嬉しいです。  
ともに、この社会を創っていきましょう。



共同代表 今井紀明

成功体験の  
獲得

+

社会関係資本の  
醸成

「俺、もう人生詰んでる」  
と思ってる。

D×Pは、生きづらさを抱えた高校生が自分の可能性を信じて社会に飛び出していけるようになるためには「成功体験の蓄積」と「社会関係資本の醸成」の2つが必要だと考えています。

本人にとっての「できた」という経験の積み重ねにより、自分で自分を認められるようになります。自分と似たしんどい経験を抱えながらも楽しそうに生きる大人との出会いは、彼らが将来を現実的に考えるきっかけになります。安心して自己開示できる大人との出会いと関係性の持続は、しんどい時の支えになります。

どんな成功体験や社会関係資本が必要かは一人ひとり異なるため、高校生の段階に合わせたプログラムを提供しています。

### ●D×Pのプログラムの全体像



「自分なんかどうでもいい、どうなったっていい。死に場所を探してた時もあった」

「俺、もう人生詰んでると思ってる。漢字も読めへん。金もない。」

「ずっとずっと息がつまりそうな思いをしてきて【幸せだ】と言っている人が理解できなかった」

20・30代の死因のトップが自殺。10〜30代の年間約6500人が自殺し、全年齢では年間約2万5000人が自分の「これから」に絶望して自ら命を絶ちます。東日本大震災での犠牲者数が約1万5000人と言われていますが、日本では毎年のように自然由来でない「災害」が起こっているように見えます。

日本では、98%のひとが高校に進学するため、D×Pは、高校を「最後の砦」と考え、若者が希望を持てる社会をつくっていくために、高校生の段階での取り組みを行っています。

特に、不登校やいじめの経験がある高校生、発達障害や学習障害、健康上の課題、経済的なゆとりのない家庭に生まれた高校生など、この世の中で「生きづらさ」を抱えた高校生を中心に取り組みをしています。

そのため、そういった高校生が集まりやすい、通信制高校・定時制高校に集中して活動しています。

D×Pは日本で初めて通信制や定時制高校に特化して活動するNPOだと言われます。(実際どうなんだろうね?)

# 2014年度のD×P ハイライト

2014年度に  
D×Pで起きた出来事を  
10のトピックスに  
まとめました♪

## 1 定時制高校での 本格授業開催

2014年度の目標だった定時制高校での授業開催が実現しました！定時制高校では、経済的なしんどさを抱えた生徒、病気を持つ生徒など様々な高校生に出会いました。通信とは異なり仕事を持つ高校生が多いことも特徴でした。D×Pの取り組みの詳細は、p11へ！



## 5 企業との連携で コンポーザーが学校に

今年度は全日制課程の高校で本格的に授業を実施した年でもありました。しかし全日制の高校生が学校にいる時間帯は、本来社会人は仕事の真っ最中。(株)LITALICO様と提携し、研修の一環として社員の皆様をボランティアとして派遣いただき、授業が実現しました！



## 4 泉大津市にて 生活保護家庭向けの プログラムスタート！

泉大津市と提携し、生活保護家庭で暮らす中高生向けのプログラムを開始。生活保護家庭の子ども向けの学習支援の場は各自治体にあります。しかし、「そもそも中高生が学習への意欲を持っていない」という課題がありました。そこでD×Pは「やってみたい」という気持ちを湧き起こせるような場をつくらうと、生活保護家庭の中高生向けにプログラムを新たに構築。プログラム実施中にアルバイトを始めた高校生もおり、就労意欲・学習意欲の向上が見られました。



## 2 プログラムを 受講した生徒数が 昨年度の約5倍の430名に！

D×Pのプログラム「クレッシェンド」や定時制高校プログラムなどの受講生徒数が2013年度の5倍の約430名になりました！そのため、今はコンポーザー（ボランティア）とインターン生の確保が目下の課題です…！

## 3 部活動プロジェクト 本格START！

今年度から部活動プロジェクトをスタートさせました。生徒の興味のあることを通じて、学校外で集まりやすい場をつくらうと始めました。写真部、映画部、登山部、フットサル部などの活動を行いました。詳細はp13へ♪



## 6 マンスリーサポーターが 168名に（嬉涙）

今年、公立高校で授業が実現できたのは、寄付のおかげでした。公立高校には私立よりも経済的なしんどさを抱えた生徒が多いものの、学校予算は年々削減されており、プログラムの導入ができない状況でした。しかし、2014年度はご寄付により実現することができました！

マンスリーサポーター  
99名→ **168名**

スポンサー企業  
2社→ **15社**

## 8 ココファンドリップ 2,100本の売上達成！

(株)ココウェルとD×Pとの協働で始めたココファンドプロジェクト。対象リップ1本100円が寄付され、通信・定時制高校の生徒をフィリピンに送り出すことができます。

年度は目標の2,100本の売上を達成し、1名の高校生をフィリピンのスタツアに送り出しました。



## 10 2015年1月、 天満橋に事務所を移転

事務所を訪問する高校生やコンポーザーが増えて手狭になったため、天満橋駅近くに事務所を移転させました♪



## 7 福祉×音楽の融合イベント TUNE the NEXT 開催

「社会貢献」なんて全然興味ない人が楽しく関わる方法ってないかなあ。



そんな代表の想いから始まった音楽と福祉の融合LIVEイベントが2015年2月に開催♪様々な方にお集まり頂きました！

## 9 通信制高校に通う高校生と 卒業生の実態調査を開始

厚生労働省の社会福祉推進事業に採択され、通信制高校に通う高校生と、卒業生の実態調査がスタート。高校3年生462名と、卒業生112名にアンケートへの回答をもらいました。今年度はアンケート用紙を集めるだけでひと苦労でしたが、来年度はこのデータを分析していきます！

# 過去を受け入れ、未来を描くプログラム



## クレッシエンド&定時制高校プログラム

「自分の思い描く未来に不安しかないと思ってたけど、自分らしく、がんばっていいこうと思います」

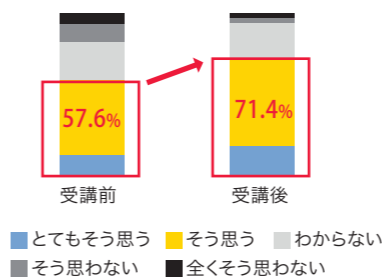
「高校生と話す時折はつとずる。自分このままじゃアカンなって」

クレッシエンド終了後に高校生とコンポーザーそれぞれが書くシートには、こんな言葉が綴られていた。授業の時間が終わっても、名残惜しいのか生徒とコンポーザーがぎりぎりまで教室に残って話し続けた。他愛無い話から、普段話さないようなことまで。

クレッシエンドは、D×Pが通信制高校で実施する「過去を受け入れ、未来を描く」プログラム。今年度、D×Pが通信・定時制高校などで実施したプログラムを

受講した生徒は約430名。学校数は全8校、授業開催数は114回に、コンポーザー登録者数は98人に達しました。クレッシエンド受講前と受講後に高校生に実施したアンケートでは「何か行動したいと思いませんか」に対し「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒は受講前58%↓受講後71%にまで向上しました。また、2015年3月に卒業した生徒のうちクレッシエンドを受講した生徒の

何か行動したいと思いませんか？



## 否定しない

これは、D×Pのプログラムで最も大切にしている姿勢です。親・先生・友人らに否定された経験を持つ高校生が多いため、このプログラムでは、高校生の発言を否定せずに受け止めることを大切にしています。明らかに否定的な表現だけでなく、例えば「努力すれば報われる」のような断定的な言い方も、D×Pでは否定であるとして捉えています。過去の経験や家庭事情から努力できない環境下にいる高校生にとって、努力すれば報われるという言葉は「じゃあ努力していない自分は報われない」と思わせてしまう言葉になります。D×Pでは「私は、努力することによって結果が出たよ」と、必ず主語をつけてその個人の経験として話すようにしています。

### クレッシエンド プログラム内容

クレッシエンドは3ヶ月間全4回の授業。高校生約10名に対し、コンポーザー(D×Pの社会人・大学生ボランティア)とスタッフ約8名が、全4回変わらず同じメンバーで関わっていきます。「ひとりひとり」との関わりを大切にしています。

**1 失敗なんてあたりまえ!**  
コンポーザーから過去の辛かった経験談を聞きます。高校生の持つ負の経験の相対化がねらいです。



**2 みんなの生活見てみよう!**  
コンポーザーが「現在」どんな仕事・生活を送っているのかを聞き自分の進路を考える時間です。



**3 みんなでユメブレ♪**  
大きな目標からちょっとやってみたいことも含め、自分の「ユメ」を円になって共有しあいます。



**4 知らなかった自分を知ろう!**  
これまでの授業のなかで抱いた、他の高校生とコンポーザーの印象を、手紙に書いて伝え合います。



# VOICE



**私** のことを知ろうとする姿勢を目の当たりにすると恥ずかしくもあり嬉しくもある。広い心で受け止めてくれる人がいるというだけで救われ、楽になることができた。

**今** まで、人生や社会の辛い部分にしか目がいつてなかつたので、ひさびさに将来や人生について明るく考えられたと感じます。



**憧** れていた楽器。これからでもいいから習に行きたいなって思いついて自分のしたいことがちゃんとあるんだと思った。

**友** 達の作り方について尋ねたら、「変に気構えず出会うべき人は必ず出会うから大丈夫だよ」と優しい言葉をかけてくださって、心が軽くなった。たった一言で、心が救われた。



**先** 生に話さないようなことをコンポーザーに話しているのを見て、最初はD×Pに嫉妬しました(笑) 俺ら先生のほうがすごい！って。でも、生徒にとっては先生には言えないことがある。生徒が元気になる場所は学校でなくたっていいと思うようになりました。(通信制高校の先生の声)



**人** の痛みなんて、どうしたってわからない。だけど、高校生に自分の過去の経験を話すなかで、高校生本人がどこか共感できる瞬間に出会うかもしれない。高校生に「もしかしら5年後は大丈夫かも」と、自分(コンポーザー)の存在が彼らの希望になるかもしれない。(コンポーザーの声)

## 一人の人間として

D×Pの社会人・大学生ボランティア「コンポーザー」は高校生と関わるのが上手な人でなくても構いません。その場にいる高校生全員と仲良くなる必要もありません。大切なのはコンポーザーが「一人の人間として、その人らしくその場にいる」こと。そして、高校生を「歳下」や「子ども」として接するのではなく「一人の人間として」関わることです。オトナたちが等身大で関わることで、高校生がオトナに対して持っている「壁」を取り払って関わることができます。

## 誰かに任せるなんて

D×Pのプログラムは、学校の授業カリキュラムのなかに組み込まれ、単位認定される授業として実施されます。任意参加ではなく

強制力があるものにする事で、サポートの必要な生徒に確実に会うことができます。

しかし「学校の授業に組み込むこと」は学校の先生の許可・連携が必須で、難しいことでした。団体設立当初は学校の先生から信用されず、また「授業は自分たち教員がやるもの。誰かに任せるなんて考えられない」という先生も多くおられました。(当然ですよね、授業運営のプロですから!)しかし学校訪問を重ね、トライアルで授業を導入するなかで、D×Pとの連携を希望する先生の声をいただけるようになり、2015年度の授業導入予定校数は14校(2014年度は8校)と約2倍になりました。

学校のカリキュラムに組み込ませるため、2014年度内に次年度の授業導入予定校が決まります!

## コンポーザーってなに?

コンポーザーとは、D×Pの社会人・大学生ボランティアのこと。高校生に過去の経験を伝え、対話するなかで高校生の可能性を拡げる存在です。2014年度のコンポーザー登録者は約98名。社会人と大学生の構成比は7対3くらいです。

2013年度までは「否定しない」という関わりができそうな方のみを採用していましたが、「不採用」とすることはD×Pの大切にしている姿勢と反していると考え、コンポーザー希望者を不採用とすることで自体をやめています。



# 定時制高校での 初の本格開催



※この写真はイメージです。定時制高校の授業の写真は掲載を差し控えています。

## 全4校で実現

2014年度は全4校の公立定時制高校でプログラムを実施することができました。「クレッシエント」を土台に、各校のお困りごとに寄り沿って、学校ごとに新たにプログラムをつくりました。全3〜4回の授業ですが、1回の授業が終わるごとに、生徒の反応を見て次の授業の内容を考えなおすなど、試行錯誤しながら取り組みました。ボランティアの数が足りないという課題や、実際にやるとうまくいかなかったワークもありましたが、全4校すべてが2015年度もリピートして授業を導入することが決まりました。

### 先生の声

- ✓ 生徒から聞いたことのない話、生徒の見たことのない表情をみることでよかった。D×Pスタッフの生徒との関わりを見て勉強になった。
- ✓ クラスで孤立していた生徒が、楽しそうに他の生徒と話していてとても驚いた。
- ✓ スマホをいじる生徒が多い。D×Pさんは「何かを禁止する」というスタンスではないのかもしれないけど、けじめはつけたほうがいいのでは？
- ✓ 授業の始まりと終わりの時間はもっとメリハリをつけたほうがいいのでは。
- ✓ プログラム後、進路指導室に来て求人票を見るようになった生徒がいた。
- ✓ 11月、12月でなく夏休み直後など早い段階でD×Pさんに来てもらえばよかった。

### アンケート結果

- ✓ 「将来やりたいことがある」と回答した生徒 授業前44%→授業後68%
- ✓ 「クラス内に仲の良い友人がいる」と回答した生徒 授業前19%→授業後57%
- ✓ 「自分にもできることはある」と回答した生徒 71.2%(事後アンケートのみ)

### 次年度に向けて

- ✓ 定時制高校夜間部の時間帯に参加できるコンポーザーの数を確保することができなかったのが一番の課題。次年度は、企業連携による社員派遣なども視野にいれて、コンポーザーの確保を目指す。
- ✓ 「プログラム内でできること」「できないこと」を明確化させ、次年度中に定時制高校プログラムの内容を確立させる。

### 定時制高校プログラム(一例)

- プログラムの目的: 「生徒同士の横のつながりをつくる」
- スタッフ・コンポーザー数: 9名 ●クラス数: 3 ●生徒数: 約30名

#### 1 マトリクス自己紹介

9つのマスを使い自己紹介をしていくワーク。コンポーザーと生徒が少しだけお互いを知ることができました。ワークに参加せず、椅子に座ったまま俯く生徒やスマホに夢中になる生徒も多かったです。

#### 2 自分史

これまでの人生を振り返り、嬉しかったこと・悲しかったことを付箋紙に書くワーク。他の生徒が書いたことに興味を持つような場面が多く、場の雰囲気の変化したと感じました。

#### 3 お絵描き・展示会

自分のやってみたいことを画用紙に描き、それを展示するワーク。描けなくとも、スタッフとの対話のなかで自分の気持ちを表現する生徒もいました。クラス全員が1つの輪になる場面もあり、終始温かい雰囲気でした。

# 宿泊型 インターンシップ



# 部活動 プロジェクト

「何か挑戦したい!」「ちょっと、家から離れてみたい…」そんな気持ちを持つ高校生に、D×Pでは1週間程度の宿泊型インターンシップを紹介しています。とくに、関西を離れた自然豊かな地方でのインターンに興味を持つ生徒が多いです。

高校生にとっての新しい居場所となることを目的に、今年度から部活動プロジェクトがスタート!…と格好よく言いましたが、活動内容は好きなことをして遊んでいるだけ。でもその遊びのなかで、授業の時間ではできない関係がつくられています。

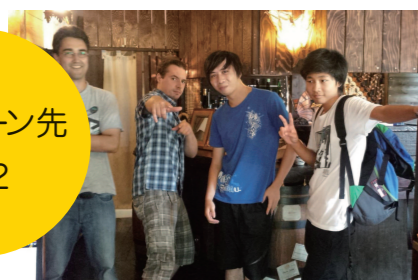
インターン先  
file1



## 民宿・但馬屋

鳥根県の隠岐に浮かぶ島「海士(あま)町」にある民宿。10月にインターンに行った生徒は稲刈り、2,3月ならなまこの収穫、5月は田植えや農作業…と、田舎暮らしを経験できます。

インターン先  
file2



## ゲストハウス・時のかけら

大分県湯布院町のはずれにある、外国人向けゲストハウス。オーナーさん以外のほとんどのスタッフが外国人!英語を話す環境で生活してみたい高校生に人気のインターン先です。

高校生の声

これまでは知らないところに行くのが苦手だったけど、これからは『あの時10日も頑張れたんやからいけるんちゃう?』と思える気がします。

今いる「現実」だけが全てじゃないというか。時のかけらみたいな世界も存在するんだなって知れたのはよかったかな。

## 部活動の例

### 写真部

今年度最も精力的に活動したのは写真部!通信制高校の卒業生が運営の中心メンバー。一眼レフカメラを手に外に繰り出し、撮った写真の感想を伝えます。

当初はどう卒業生に運営を委ねていくかという点で難しさを感じていましたが、最近ではD×Pのスタッフなしで自主的に運営されるようになりました♪

### 映画部

映画をこよなく愛する朴が主催する映画部!鑑賞後は「否定しない」というルールの下、心に残ったシーンや感想を発表しあいます。

### 登山&フットサル部

登山大好きな今井と、サッカー&フットサルが大好きな川上がそれぞれ企画しています♪遊ぶだけ!



# Supporters

スポンサー企業・個人の皆様（順不同）



サービス無償提供・間接寄付・高校生受入企業など

Gooddo株式会社 / JAMMIN合同株式会社 / GOODS買取ネット / 株式会社セールス  
フォース・ドットコム / Chatwork株式会社 / エートス法律事務所 / UDS株式会社 /  
ケーキ屋さんこいまり / 共進情報事業協同組合 / 時のかけら / 但馬屋 / tobira企画 /  
ビックイシュー基金 / 株式会社エコプランニングサービス

マンスリーサポーター・自由寄付をいただいた方

**192名**

マンスリーサポーター（定額寄付会員）は2015年3月31日  
時点で168名、2014年度に自由寄付をくださった方は24名  
となりました。お一人お一人、想いのこもったご寄付で、ご  
寄付の理由をうかがうたびに胸がいっぱいになりました。  
いつもご支援いただき、ありがとうございます！

# Media/Awards

メディア掲載履歴（一部抜粋）

- 2014.04 北海道新聞(朝刊)「自己責任から10年 2人の今」
- 2014.04 朝日新聞(朝刊)「人と関わり 心に変化」
- 2014.04 日本経済新聞(夕刊)「逃げずに 経験発信」
- 2014.05 大阪日日新聞(朝刊)「元不登校 学外で成長」
- 2014.07 YOMIURI ONLINE 「高校生の居場所づくりを学校外からも支える25歳」
- 2014.09 徳島新聞(朝刊)「若者発掘は日本の未来創造」
- 2014.11 月刊みつ基地「生徒層が変化し、苦慮する通信制高校のいま」
- 2014.12 毎日新聞(朝刊)「学校と私 NPO法人D×P代表 今井紀明さん」
- 2015.02 NHKラジオ第1「NHKラジオジャーナル」(今井ゲスト出演)

2014年度は、マスメディア掲出の優先度を下げ、現場運営を優先したため、メディア掲出件数は年間27件にとどまりました。2015年1月、ISISによる人質事件により当団体への問い合わせも相次ぎましたが、応援メッセージも多く、改めてあたたかく見守ってくださる方の多さに気付かされました。

あたたかい応援の言葉をくださった皆様、ありがとうございました！



受賞・採択履歴

- 2014.04 JT 2014年度NPO助成事業に採択
- 2014.04 厚生労働省「平成26年度社会福祉推進事業」に採択
- 2014.09 共同代表の朴が、マイクロソフト社のYouthSpark Youth Advisorに日本代表として選出
- 2014.12 「三井住友銀行ボランティア基金」に採択
- 2015.01 第5回地域再生大賞 優秀賞を受賞
- 2015.03 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」に採択

# Next

2015年度のD×Pは「助走期間」。  
昨年度から取り組み始めた定時制高校や生活保護家庭の中高生向けプログラムの内容の確立に注力します。  
同時並行で新しい取り組みの試行も進めていきます！



## 生徒と社会をつなぐ事業部

- ✓ 定時制高校におけるプログラム内容を確立
- ✓ 2016年度以降の、他地域展開に向けた試行開始
- ✓ コンポーザーのコミュニティ化
- ✓ 進路未決定者と進路決定者の違いを分析
- ✓ 部活動プロジェクトや同窓会、インターンの取り組みの効果測定
- ✓ 2016年度の他地域展開に向け、現場を担う正社員を1名採用



部長：川上竜典  
(たっちゃん)

## 新規事業部

- ✓ 生活保護家庭の中高生向けプログラムの確立
- ✓ 通信・定時制の生徒を対象にしたプログラミング講座の試行開始
- ✓ 高校向けコンサル事業の試行開始



部長：今井紀明  
(のりさん)

## 経営管理部

- ✓ 認定NPO法人格の取得
- ✓ 顧客管理システムの利活用による寄付営業・人材採用の仕組み確立
- ✓ WEBサイトの運用体制の確立とWEBサイトリニューアル
- ✓ 業務委託契約による、寄付営業マン(ファンドレイザー)の増加
- ✓ 通信制高校の生徒の実態調査の分析



部長：朴基浩  
(きほさん)

# Join us

## Monthly Supporter 定期寄付会員

寄付は一人ひとりの想いのこもった「未来への投資」です。  
D×Pを通じて高校生をサポートしませんか？

- マンスリーサポーター特典(一部)
- ✓ 最新の年次報告書をお送りします
  - ✓ 毎月の限定メールマガジンをお送りします
  - ✓ 授業見学できる機会があります(抽選)

### 月1,000円のサポートで！

サポーター10人が集まるとD×Pのプログラムを1クラスに1回、公立高校に通う高校生に届けることができます。

### 月2,000円のサポートで！

サポーター5人が集まるとD×Pのプログラムを1クラスに1回、公立高校に通う高校生に届けることができます。

### 月5,000円のサポートで！

サポーター2人が集まるとD×Pのプログラムを1クラスに1回、公立高校に通う高校生に届けることができます。

### 月10,000円のサポートで！

サポーター1人でD×Pのプログラムを1クラスに1回、公立高校に通う高校生に届けることができます。

●D×Pは認定NPO法人です。寄付金額の最大約半額が税額控除で返還されます●

お申し込みは  
D×P公式ウェブサイトより

D×P 寄付 検索

## 自由寄付

お好きな金額を  
お好きなタイミングで

ゆうちょ銀行  
四一八 (418)  
普通 6142866  
トクヒ)ディーピー

楽天銀行  
第二営業支店  
普通 7079724  
トクヒ)ディーピー

東京三菱UFJ銀行  
大阪京橋支店  
普通 0072241  
トクヒ)ディーピー